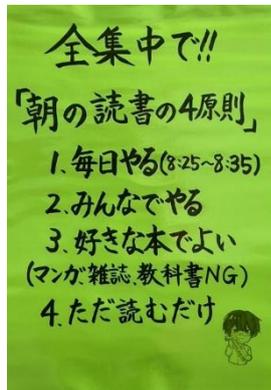


みんなでやる・毎日やる・好きな本でよい・ただ読むだけ

## 身延中の朝読、始動!!

朝書とは授業が始まる前の10分間、本を読むだけのシンプルな活動です。競争も評価もない、自由さが受け入れられ、現在では、全国でも約27,000校（朝の読書推進協議会調べ）の小・中・高等学校で実践されています。身延中学校でも開校以来、火曜日から金曜日まで欠かさず行っています。



各教室に掲示されている、「朝の読書の4原則」今年度は、3年A組のKMさんをお願いしました!(達筆!)



入学式翌日の1年生教室にお邪魔しました。聞こえてくるのはページをめくる音だけ。本当に興味しました。担任の先生も、ともに読書です。

現代の子供たちの生活は、学校の学習・部活動に加えて、塾・習い事、スマートフォンの普及で読書時間の捻出が難しくなっているとされます。時間に追われ情報があふれる現代の生活は便利であってもストレスフルです。

そうした中での「朝の読書」の10分間は、子どもたちが活字に触れ、本来の伸びやかな感受性を発揮し想像力をふくらませる貴重な時間となっています。

また、さまざまなことから悩みを抱え、つらい思いをしている子にとっても、本は常によりそい、人生を導いてくれる存在ともなります。

身延中学校でもこの「朝読」が今後もかけがえのない時間として、すべての生徒に親しまれることを願っています。



↑昼休みの図書館にて3年生を代表する「ほんのむし」のみなさん。好きな本を熱く紹介していました。中学生にとって本を好きになるきっかけは「友だちからの紹介」が多いようです。今年はどうな本にてあえるかな?

参考:『2021年度版 本を選ぶほん 中学校向けカタログ』